

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2054 号

Impact of lipoprotein (a) levels on long-term outcomes in patients with coronary artery disease and left ventricular systolic dysfunction

(左室機能障害を有する冠動脈疾患患者においてリポプロテイン(a)値が長期臨床転帰に与える影響)

設楽 準 (したら じゅん)

博士 (医学)

論文内容の要旨

近年、高齢化に伴い心不全患者は年々増加傾向にあり大きな課題となっている。心不全患者の臨床転帰に関して、左室機能障害は重要な予後予測因子であることは以前より知られている。特に罹患数の多い冠動脈疾患患者の生存率上昇に伴い、左室機能障害を有する冠動脈疾患患者の臨床転帰を改善することは大きな課題である。一方で、Lipoprotein(a)は動脈硬化のリスク因子として知られており、冠動脈疾患患者において将来的なイベント発生予測因子となり得ることが報告されてきている。また、近年Lipoprotein(a)が高い健常人は将来的に心不全を発症するリスクとなることが報告された。このことから我々は左室機能障害を有する冠動脈疾患患者において、Lipoprotein(a)は将来的な心不全発症や冠動脈疾患の再発、また予後を含めた臨床経過に大きく影響するのではないかと仮説を検証した。対象は1997年1月から2011年10月に当院で初回経皮的冠動脈形成術を施行した3508人のうち、左室収縮率50%未満であった369人とした。血清Lipoprotein(a)値中央値21.6mg/dLによって高Lipoprotein(a)群と低Lipoprotein(a)群に分類し、後ろ向きに観察を行った。エンドポイントは全死亡と心不全もしくは急性冠症候群による再入院の複合エンドポイントとし平均観察期間は5.1年であった。結果、高Lipoprotein群ではイベント発生率が有意に高い結果となった($P=0.005$)。また、Coxハザード解析を用いた多変量解析を行った結果でも高Lipoprotein群は有意に独立したイベント発生予測因子となることが示唆された(HR 1.56; 95% CI 1.11-2.21; $p=0.01$)。このことから、左室機能障害を有する冠動脈疾患患者においてLipoprotein(a)は長期的な臨床転帰の予測因子になり得ることが示唆された。